



# SSHレターズ

長崎県立 大村高等学校

最先端の学びを日本の西端から創造する。  
学びの“SHINKA”がここから始まる。

2巻/7号 2023/11/17

## ◆SS探究II A 課題探究中間発表会

令和5年10月11日、2年生数理探究科21名が今年度4月～9月にかけて、9つの班（物理1、化学1、地学2、生物5）に分かれて実施してきた課題探究の内容をポスターにまとめ、中間発表会を実施しました。

研究成果を整理して発表し、参観者からアドバイスをすることで、各班とも新たな気づきを得ることができました。今後につながるよい機会となりました。

1か月後、今回発表したポスターを英訳し、英語で発表することになっています。

- (班) 発表テーマ
- ① ネームペンと小巻テープを用いた反復上昇現象の解明 (物理)
  - ② アルミホイルカイロの発熱条件 (化学)
  - ③ 大村湾のゴミの集まり方について (地学)
  - ④ 波佐見町二ツ岳における未記載のケイソウ化石の同定及び当時の環境について (地学)
  - ⑤ 大村市街地水路のコアマモについて (生物)
  - ⑥ アクアポニックスを用いた植物と竹炭の関係について (生物)
  - ⑦ 大村湾市街地水路のミナミメダカについて (生物)
  - ⑧ プラナリアの咽頭における摂食行動の謎について (生物)
  - ⑨ 酵母がもつ抗カビ物質について探る (生物)



## ◆SS探究II C 環境セミナー

令和5年10月20日（金）に、長崎大学環境科学部准教授(総合生産科学域)の利部慎（かがふまこと）先生を講師としてお招きし、2年生家政科を対象とした「環境セミナー」を開催しました。「身近な水」を使った科学的リテラシーの向上と水と環境との関係についての理解を深めるという目的のもと実施しました。



講義では、地球上の「水」の分布と人間が利用できる水の割合や長崎における水の利用状況等の説明があり、生徒は長崎県の水道料金の他地域との差（長崎県が高い）に関心が高かったようです。実験では、熊本・山梨・フランスのミネラルウォーターのテイスティングを行い、同じ水でありながら味が微妙に異なることに気づく体験ができました。最後の実験では、校内で普通に接している「水」を使って汚れの程度をCODのパックテストで調べました。各自で「清潔そうな」水や「汚そうな」水を採水しパックテストで検証しました。イメージどおりの水や清潔そうな水であってもそうでない結果が出たりしており、実験の必要性を再認識したようでした。水と環境問題について考える良い機会になりました。

## ◆文理探究科連絡協議会

### 東京学芸大学探究プロジェクトとの連携における授業研究会

授業者：大村高等学校 教諭 小林 詳梧

教科・科目：学校設定科目「OMURA STEAM LABO」における公共分野

授業対象者：文理探究科1年1組、2組

単元：「哲学入門」自己と他者の生き方～公共の場をどうつくる？～

令和5年11月2日（木）に、昨年度から長崎県文理探究科連絡協議会と東京学芸大学とで実施している連携事業「東京学芸大学高校探究プロジェクト」において、研究会を開催しました。この事業は、東京学芸大学の先生や県教育委員会、県内の高校の先生方がチームとなって、1年間かけて授業準備を進めていくという協働型の授業づくりで実践しています。大村高校では、今回、学校設定科目「OMURA STEAM LABO」のプログラムの一環として、公共の中の哲学を取り入れた内容で授業を行いました。当日は、東京学芸大学の日高智彦先生を始め、県内の高校や本校の先生方に参加をしていただき、午後の研究協議も活発な議論が展開されました。



SSH活動の詳細は、下記URL

または2次元コードから

→ <http://www.news.ed.jp/>

[omura-h/ssh/SSH.html](http://www.news.ed.jp/omura-h/ssh/SSH.html)